

育てたい子ども像

育てたい子ども像【前回】

資料②

意欲的・主体的な子ども  
夢中になって遊び込める子ども  
自分も友達も大切にできる子ども

舞鶴が好き

遊びや体験を通して

子どもに育てたい力、気持ち

ほくが、わたしが

- 自己決定する力
- ・自分で判断する
  - ・自分で考えて行動する
- 自己表現する力
- ・自分の思いや考えを伝える

自律  
自立

安心感

信頼感

からだ

達成感

自己肯定感

自己尊敬感

自己有用感

基本的な生活習慣

愛着関係

5領域

環境

言葉

表現

みんなの中のほく、わたし

- 社会性・コミュニケーション力
- ・友達とつながる
  - ・我慢する、折り合いをつける
- 協同的に学ぶ力
- ・友達の思いがわかる
  - ・個性を認め合う

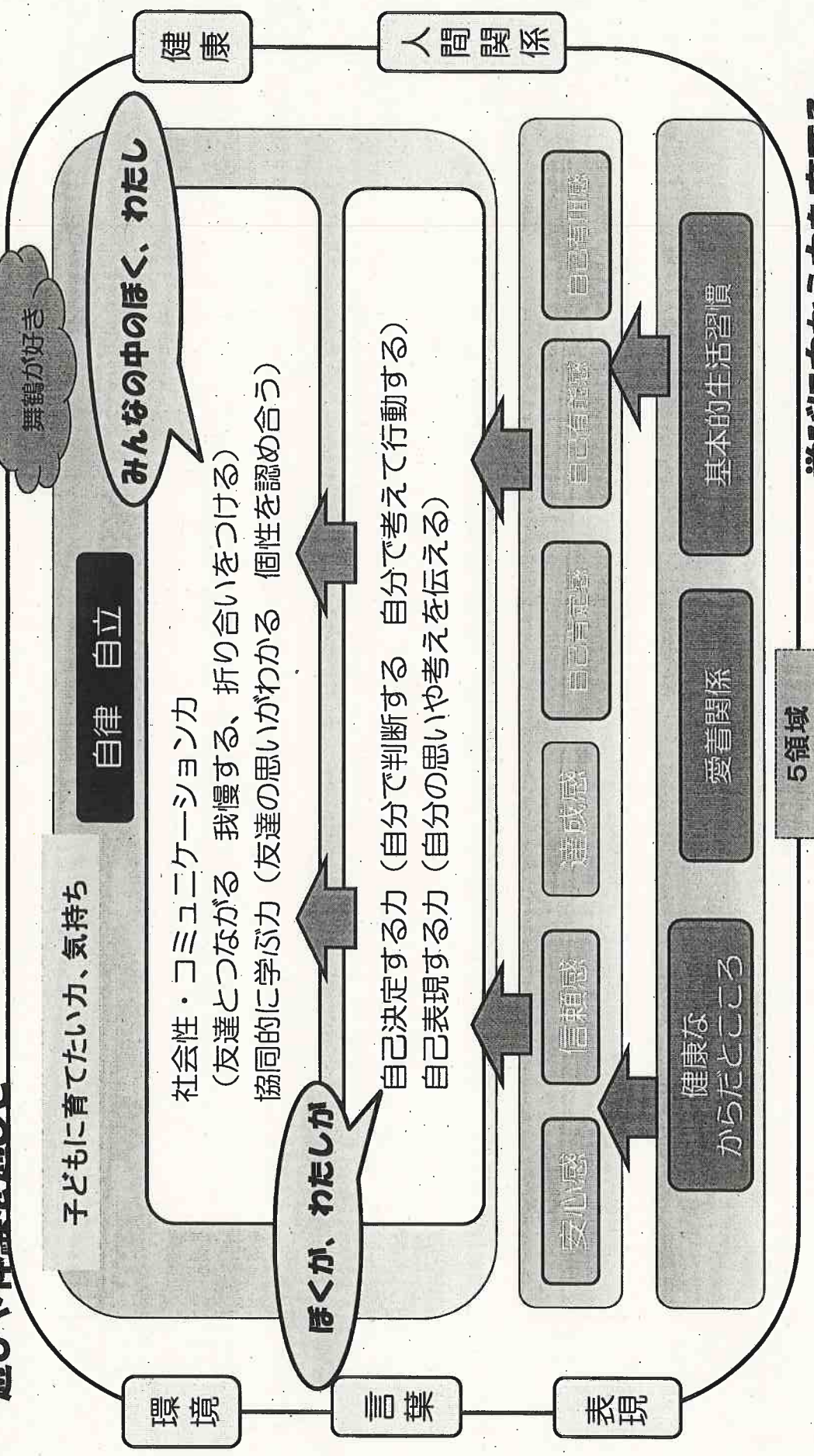
健康

人間関係

学びに向かう力を育てる

意欲的・主体的な子ども  
夢中になって遊び込める子ども  
自分も友達も大切にできる子ども

遊びや体験を通して



# 幼児教育・保育の実践で大切にしたいこと

## 【主体性の尊重】

- 受け止める ほめる
- ありのままを認める「たった一人のかけがえない存在」「あなたはあなたでいいんだよ」
- 子ども一人ひとりを理解する
- 自分のことが自分でできる喜びを感じられるようにほめる
- 声かけく自分からやりたい気持ち尊重する
- 自分で気付けるように、ヒントを与える
- 自分たちで考えるきっかけづくり
- 言い過ぎない、答えを言わないで待つ
- 大人の勝手な期待ではなく、子どもの意欲に沿った目標を子どもと一緒に見つけ応援する
- 個性を認め、伸ばす
- いいところ、得意なところを見つけ、伸ばし、自信を持たせる
- 「自分ではできない」「この子はできない」というイメージの定着を避けたり、固定概念を覆すよう働きかける
- 違っている、いろいろな子がいて楽しい、一人一人の違いを認める
- 社会性・コミュニケーション（友達に認めてもらう）
- 大人が子どもの話や思いに耳を傾ける
- 集団の中の一人として認識し、人とかわる経験を積む
- ルールを自分たちで作る、守る
- 自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持つ
- 自分の考えたことを伝え、受け入れてくれる集団づくり
- 発見したことや行動したことが、みんなの中で認められるように周りに発信する
- みんなの中で役立つ自分や、やればできる自分を感じられるように一人一人にスポットを当てる
- けんかやトラブルを手やんすととらえ、相手の気持ちに気づき、良いこと悪いことを判断する機会にする
- 言えて良かった、相手がわかってくれたという思いを育てる
- 大人がモデルになり、あいさつ、マナー等を示す

## 【保護者に発信】

- 乳幼児期に大切にしたいことや発達を発信することで、理解も深まる（発達等の他、大人と子どもとの感じ方の違い、子どもの気持ち等）
- 今後起こりうるトラブル、けが等…事前に知らせることで保護者も見通しが持て、安心につながる

## 【連携】

- 保幼小連携（年長児と1年生とが生活科を通じて交流）
- 保幼小中連携（避難訓練、家庭科、職場体験）
- 家庭・地域とのつながり

## 【その他】

- 体力、耐力
- 意欲 ※保幼小中すべてにおいて重要
- 親・地域・幼・保が一体となって、規範意識を育てる
- 保護者や地域への発信は、各園からと合わせて行政からも行うことが必要

# 大切にしたいこと【前回】

## 【安心・安心】

- 信頼・安心できる居場所
- 信頼されていると感じられるように見守る
- 失敗も認める「失敗しても大丈夫」「間違えてもいいんだよ」
- 大人との信頼関係を築き、安心して何でも言える雰囲気づくり
- 家庭の安心
- 反抗期に反抗できる…受け止めてもらえらる家庭
- その子やその家庭にあったつながり、必要な（ふれるべき）時に触れあう。
- 時間が短くても親が子に好きな気持ちをしっかり伝える。

## 【環境】

- 子どもの興味や関心を基盤とした意図的な環境
- 自然を取り入れる

## 【遊び】

- 夢中になって遊びこむ
- 繰り返し遊ぶ⇒遊び込める⇒新たな発見
- 目的を持って遊べる 今日があつて明日につながる見通しを持って遊ぶ

## 【体験】

- 時間の制約が少ない乳幼児期こそ、時間にとられない遊びや体験を重視する
- 失敗した自分を認め、次へつなげるために見守る
- 自分で「できた」みんなで「できた」という成功体験
- 実際に見る、触る、聞く、におう、食べる…五感を使った直接的な体験

## 5領域

それぞれの子の興味や関心に

合わせた活動の中で目的や

ねらいを達成していく

環境を通じた遊びや体験

## 発達

年齢・発達に応じた活動

## 【行事】

- 行事に追われるのではなく、子どもたちで考えた
- り、試行錯誤する時間を持つ
- 出来栄えが重視される、保護者に見せるための
- 行事ではなく、子どものための行事になるように
- ※園や保護者の理解が必要⇒保護者に発信していく

## 【舞鶴オリジナル】

- 舞鶴が好き、市外に出た時舞鶴について語れる大人になってほしい
- 地域の人・物・場所・自然とふれあう体験（ふるさと活動）

# 乳幼児教育の実践で大切にしたいこと

# 大切にしたいこと【修正】

乳幼児教育すべての根幹である・・・

## 【5領域】

幼稚園教育要領や保育所保育指針において示されている教育・保育の内容である「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5領域に基づき、教育・保育が展開されている。

それぞれの子の興味や関心に合わせた活動の中で目的やねらいを達成していく。

## 【発達】

年齢・発達に応じて・・・

## ※環境を通じた遊びや体験

### <乳幼児教育で大切にしたいこと>

### <具体的な関わりや方法>

#### 【主体性の尊重】子どもとつくる保育

- 大人の関わり**
- 子ども一人ひとりを理解する
  - 受け止める ほめる
  - 自分で行動できるような声かけ、関わり
  - やりたい気持ちを尊重する
  - 個性を認め、伸ばす
  - 大人がモデルになる（あいさつ、マナー等）
- 友達や集団の関わり**
- 自分の思いや考えを話す、相手の思いを聞く、話し合う
  - 集団の中の一人として友達にも認めってもらう
  - ルールや約束を守ろうという気持ちを育てる

#### 【主体性の尊重】

- 大人の関わり**
- 子ども一人ひとりを理解する
  - 受け止める ほめる
  - ・ありのままを認める「たった一人のかけがえのない存在」「あなたはあなたでいいんだよ」
  - ・自分のことが自分でできる喜びを感じられるようにほめる
  - 自分で行動できるような声かけ
  - ・自分で気付けるように、ヒントを与える
  - ・自分たちで考えるきっかけづくり
  - ・言い過ぎない、答えを言わないで待つ
  - やりたい気持ちを尊重する
  - ・大人の勝手な期待ではなく、子どもの意欲に沿った目標を子どもと一緒に見つけ応援する
  - ・子どもがやりたいことをいっしょに実現していく
  - 個性を認め、伸ばす
  - ・「いいところ、得意なところを見つけ、伸ばし、自信を持たせる
  - ・「自分ではできない」「この子はできない」というイメージの定着を避けたり、固定概念を覆すよう働きかける
  - ・一人一人違うことがいい、いろんな子がいて楽しいと感じられる
  - 大人がモデルになる
  - ・あいさつ
  - ・マナーやルールは大人が見本を示す
- 友達や集団の関わり**
- 自分の思いや考えを話す、相手の思いを聞く、話し合う
  - ・大人が子どもの話や思いに耳を傾ける
  - ・人とかかわる機会を持つ
  - ・自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持つ
  - ・言えて良かった、相手がわかってくれたという思いを育てる
  - 集団の中の一人として友達にも認めてもらう
  - ・自分の考えたことを伝え、受け入れてくれる集団づくり
  - ・発見したことや行動したことが、みんなの中で認められるように周りに発信する
  - ・みんなの中で役立つ自分や、やればできる自分を感じられるように一人一人にスポットを当てる
  - ルールや約束を守ろうという気持ちを育てる
  - ・約束やルールを自分たちで話し合って決める
  - ・けんかやトラブルをチャンスととらえ、相手の気持ちに気づき、良いこと悪いことを判断する機会にする

- 【環境】**
- 子どもの興味や関心を基盤とした意図的な環境
  - 自然を取り入れた環境
- 【遊び】**
- 夢中になって遊び込む
  - 繰り返し遊ぶ⇒遊び込める⇒新たな発見
  - 目的、見通しを持って遊べる
  - 昨日、今日、明日につながる遊び
- 【体験】**
- 自分で「できた」みんなで「できた」という成功体験
  - 失敗体験から「どうしたらいいか」考え、次へつなげる
  - 見る、触る、聞く、におう、食べる…五感を使った直接的な体験
- ※時間にとらわれない遊びや体験を

- 【環境】【遊び】**
- ・毎日同じ遊びができる、自分でやりたい好きな遊びができる環境と時間を設定する
  - ・子ども一人ひとりをよく見て、興味関心を見つめる
  - ・子どもの興味・関心を元に環境を整える
- 【体験】**
- ・失敗した自分を認め、次へつなげるために見守る
  - ・自分で「できた」みんなで「できた」ことを喜び合う
  - ・意図的に直接的な体験や5感を使った体験を取り入れる

- 【安心・安定】**
- 信頼・安心できる居場所
  - 大人との信頼関係
  - ありのままを受け止めてもらえる
  - 家庭の安心

- 【安心・安定】**
- ・信頼されていることを感じられるように見守る
  - ・失敗しても「失敗しても大丈夫」「間違えてもいいんだよ」と認める
  - ・安心して何でも言える雰囲気づくり
  - ・すべてを受け止める
  - ・各家庭にあったつながり
  - ・必要な（ふれるべき）時にふれあう。
  - ・時間が短くても親が子に好きな気持ちをしっかりと伝える。

- 【行事】**
- 出来栄が重視される、保護者に見せるための行事ではなく、子どものための行事になるように
  - 子どもの興味関心、生活、遊びからつながる行事を

- 【行事】**
- ・行事に追われるのではなく、子どもたちで考えたり、試行錯誤する時間を持つ
  - ・毎日の遊びや子どもの興味関心から行事のテーマや取り組みを決めていく
  - ・園や保護者の理解が得られるように保護者に発信していく

- 【舞鶴オリジナル】舞鶴が好き**
- 大人になって育ててくれた舞鶴に感謝できるように
  - 市外に出た時舞鶴について語れる大人になってほしい

- 【舞鶴オリジナル】**
- 地域の人・物・場所・自然とふれあう体験（ふるさと活動）
  - ・海…漁業者との交流（地ひき網、魚とふれあう…）、魚屋、遊覧船
  - ・地域の民話、昔話
  - ・農業者との交流（米作り、畑作り…）

今後の方向性  
(方法や方向)

今後の方向性【前回】

**保幼小中の連携**

- ・各地区ごとの保幼小中の連絡会議
- ・異年齢のつながり
- ・保幼小中の指導者の交流・情報交換、研究会の実施
- ・それぞれの「ならい」を持つ
- ・生活科で招待して終わるのではなく、互恵性のある活動にする
- ・先生同士のつながり（話し合い、学び合い、相互理解が必要）
- ・年間を通じた交流・計画づくり
- ・避難訓練、職場体験、家庭科の授業等を通じて、中学生・小学生が保幼とふれあうことで、相互に効果（小さい子とふれあう機会、必要とされ頼られる自分、憧れの気持ち…）
- ・保幼小が日頃から子ども様やお互い（の取り組み）を知る

小学校以降を見通した保・幼で育てたい力は何なのか？

**質の高い幼児教育・保育（質の向上）**

- ★ 幼児教育・保育の実践で大切にしたいことすべて・・・
- ・人材育成…知識や経験値を継承していく
- ・人的な環境を整える
- ・研修（公開保育、園内研修、外部の研修…）
- ・研究会参加
- ・現場の先生が話せる時間を確保する
- ★ 質の高い幼児教育・保育を実践するには…

**幼稚園・保育園と家庭・地域の連携**

- 保護者とオープンな関係性を築き、パートナーとして共に歩む
- ・保護者同士が関わる場を意図的に持つ
- ・保護者同士をつなげる仕組み、工夫
- ・懇談会等話し合う場の充実
- ・園に関心を持ってもらう工夫～保護者を巻き込んで～
- ・親を育てる
- ・保護者へ結果ではなく、過程を伝える（ドキュメンテーション）
- ・保育の中の発達や学びを可視化し伝えると共に保護者の悩みを聞く
- ・同じ校区、地域みんなで行える活動を取り入れる（あいさつ、ノーテレビデー等）
- ・地域や民生委員と連携して、保護者の交流の機会の提供

**幼稚園・保育園・小中学校、行政、家庭、地域の役割**

- ・啓発
- ・子育ての相談
- ・人材育成（研修の実施他）
- ・可視可、情報発信
- ・保護者向け子育て講演会
- ・支援の必要な家庭への働きかけ
- ・教育・保育関係者の研修・研究・交流会の開催（行政）

<連携で大切にしたいこと>

<具体的な関わりや方法>

【保幼小中の連携】

保幼小中の連携

子どもの育ちをつなげる

- 異年齢のつながり
- 小学校の前倒しではなく、子どもの発達や育ちに合わせた接続
- 新しい世界（学校）に期待と意欲を持って

連携活動

- それぞれの「ねらい」を持った連携活動を
  - お互いに意義のある互恵性のある活動に
- 乳幼児教育と学校教育をつなげる**
- 先生同士のつながり（話し合い、学び合い、相互理解が必要）
  - 乳幼児期、児童期の発達を知る
  - お互いの教育・保育の方法を知る（遊び体験を通じて、5領域、教科…）
  - 小学校の先取りでもなく、保育園・幼稚園の延長でもない…滑らかな段差を

保幼小中の連携

- 中学生・小学生が保育園・幼稚園とふれあうことで、相互に効果（小さい子とふれあう機会、必要とされ頼られる自分、憧れの気持ち…）
- 保幼小中が日頃から子どもの様子やお互いの（の取り組み）を知る

保幼小中の連携

子どもの育ちをつなげる

- ・保育要録を送る
- ・それぞれの教育・保育の充実

連携活動

- ・年間を通じた交流・計画づくり
  - ・年長児と1年生とが生活科を通じて交流
- 乳幼児教育と学校教育をつなげる**
- ・保幼小中の指導者の交流・情報交換、研究会の実施
  - ・保育園・幼稚園は遊びの中の学びを小学校以降の教科でとらえる、小学校は教科を5領域でとらえる

保幼小中の連携

- ・避難訓練、職場体験、家庭科の授業等を通じて、中学生・小学生が保育園・幼稚園の子どもとふれあう機会をつくる

※各地区ごとの保幼小中の連絡会議の設置

【保育園・幼稚園と家庭・地域の連携】

保育園・幼稚園と家庭

- 保護者とオープンな関係性を築き、パートナーとして共に歩む

保護者への発信

- 保育の中の発達や学びを可視化し伝える
- 保護者へ結果ではなく、過程を伝える

保育園・幼稚園と地域

- 地域や民生委員と連携

保育園・幼稚園と家庭・地域の連携

保育園・幼稚園と家庭

- 保護者とオープンな関係性を築き、パートナーとして共に歩む
- ・保護者同士が関わる場を意図的に持つ
- ・保護者同士をつなげる仕組み、工夫
- ・懇談会等話し合う場の充実
- ・園に関心を持ってもらう工夫～保護者を巻き込んで～
- ・親を育てる

保護者への発信

- 保育の中の発達や学びを可視化し伝える
- ・保護者へ伝えるドキュメンテーション（おたより、掲示等）
- ・保護者の悩みを聞く（子育て相談）
- ・今後起こりうるトラブル、けが等…事前に知らせることで保護者も見通しが持て、安心につながる

保育園・幼稚園と地域

- 地域や民生委員と連携
- ・同じ校区、地域みんなで行える活動を取り入れる（あいさつ、ノーテレビデー等）
- ・地域や民生委員と連携して、保護者の交流の機会の提供

## それぞれの役割 方向性

それぞれの役割 方向性【修正】

### 質の高い乳幼児教育（質の向上）

今まで話し合ってきたすべて…

#### 保育園・幼稚園・小中学校

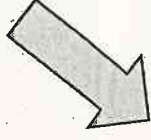
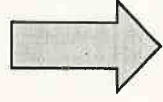
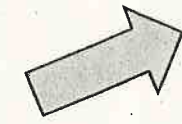
- ・人材育成…知識や経験値を継承していく
- ・研修（公開保育、園内研修、外部の研修に…）に参加
- ・研究会参加
- ・保育実践研究
- ・人的な環境を整える
- ・現場の先生が話せる時間を確保する
- ・公私、職種、校・園種の枠を超えてつながる

#### 行政

- ・研修、研究の機会の提供
- ・家庭や地域への啓発
- ・子育て講演会
- ・支援の必要な家庭への働きかけ
- ※乳幼児期に大切にしたいことや発達を発信する（発達、大人と子どもとの感じ方の違い、子どもの気持ち等）
- ・情報提供
- ・各機関が連携しやすい仕組み作り

#### 家庭

- すべての基本となる…
  - ・基本となる生活習慣の確立
  - ・安心・安全な居場所
  - ・人への信頼感の土台となる愛着関係をつくる
- 地域つなげる…支える**
- ・子育ての相談



すべては、質の向上につながっている